

2023 年 10 月 23 日



株式会社三友
アストモスエネルギー株式会社

カーボンニュートラル LP ガス供給・受入開始のお知らせ

株式会社三友（代表取締役：藤元 正邦、以下「三友」）とアストモスエネルギー株式会社（代表取締役社長：山中 光、以下「アストモスエネルギー」）は、カーボンニュートラル LP ガスの売買に関する契約を締結し、カーボンニュートラル LP ガスの受入及び供給を開始しましたのでお知らせいたします。

アストモスエネルギーが海外から調達・輸入するカーボンニュートラル LP ガスは、LP ガスの生産から燃焼消費までの輸送を含めた全てのバリューチェーンにおいて発生する温室効果ガスを、世界で行っている環境保全プロジェクトから得られたカーボンクレジットで相殺（カーボン・オフセット）し、LP ガス使用による CO2 排出量を実質ゼロにすることができる LP ガスです。環境保全プロジェクトは、地球規模での温室効果ガス削減・排出抑制により地球環境の保全に寄与し人と自然の共存につながる、持続可能な開発目標（SDGs）にも関連しています。

今回、三友がアストモスエネルギーから購入するカーボンニュートラル LP ガスは、お取引先の施設（指定障害者支援施設ゆうあい）に供給します。同施設では今般「災害対応型 LP ガスバルク供給システム」と「電源自立型 GHP」を導入し、施設および福祉避難所としての機能強靱化と環境への負荷低減を図るものです。

三友とアストモスエネルギーは、今後もエネルギー事業者として環境負荷低減に向けた活動を推進し、持続可能な開発目標（SDGs）やカーボンニュートラル社会の実現に向けて取り組んでまいります。

以上

■本件に関するお問合せ

・株式会社三友 物資事業部

TEL：0835-23-6331

・アストモスエネルギー株式会社 コーポレート本部 人事総務部

TEL：050-3816-0700



地域交流ホームで、災害対応型LPガスバルク供給システムを紹介する桑嶋さん

「ゆうあい」に災害対応設備導入

停電時や住民避難を想定

環境配慮のガスで、冷暖房などに

停電時などに役立てようと、指定障害者支援施設ゆうあい（向島）は災害対応型LPガスバルク供給システムと電源自立型GHPを導入した。福祉避難所でもある地域交流ホームに設置し、災害時にも冷暖房を動かしたり、炊き出しにも活用する。三友（駅南町）が施工し、市内では3カ所目。

現地説明会で阿部次男理事長（73）は「台風の際に地域の避難を受け入れてきたが、暖房などの提供は難しかった。快適に過ごせるようになれば」とあいさつした。岩竹毅施設長（50）は「向島は、橋一つが使えずに

分断されることもある。安心して避難できる拠点にしたい」と気を引き締める。

災害バルクはLPガスを貯めておき、ライフラインが寸断されても迅速なエネルギー供給ができる仕組み。道路が寸断されても発電ができ、炊き出しにも使える。平時は地域交流ホームの冷暖房に活用する。最低で約6日間利用できるエネルギーを確保。残量は回線を通じて同社が確認、対応する。

電源自立型GHPは、ガスを熱源にした空調機器で、電気式に比べて消費電力を大幅に減らせ

る。停電時は、施設の照明にも電力を供給。ゆうあいは20年前からガス空調を使っており、今回は同ホームの更新に合わせて電源自立型を採用した。三友の桑嶋康裕さん（32）は「通常のエアコンより、電力消費を10分の1にできる」と話す。

使用するのは、カーボンニュートラルLPガス。生産から消費までに発生する二酸化炭素に対し、各国の環境保全プロジェクトから出た権利を購入して相殺。排出を「実質ゼロ」にでき、環境に配慮したガスという。

（杉田雄）